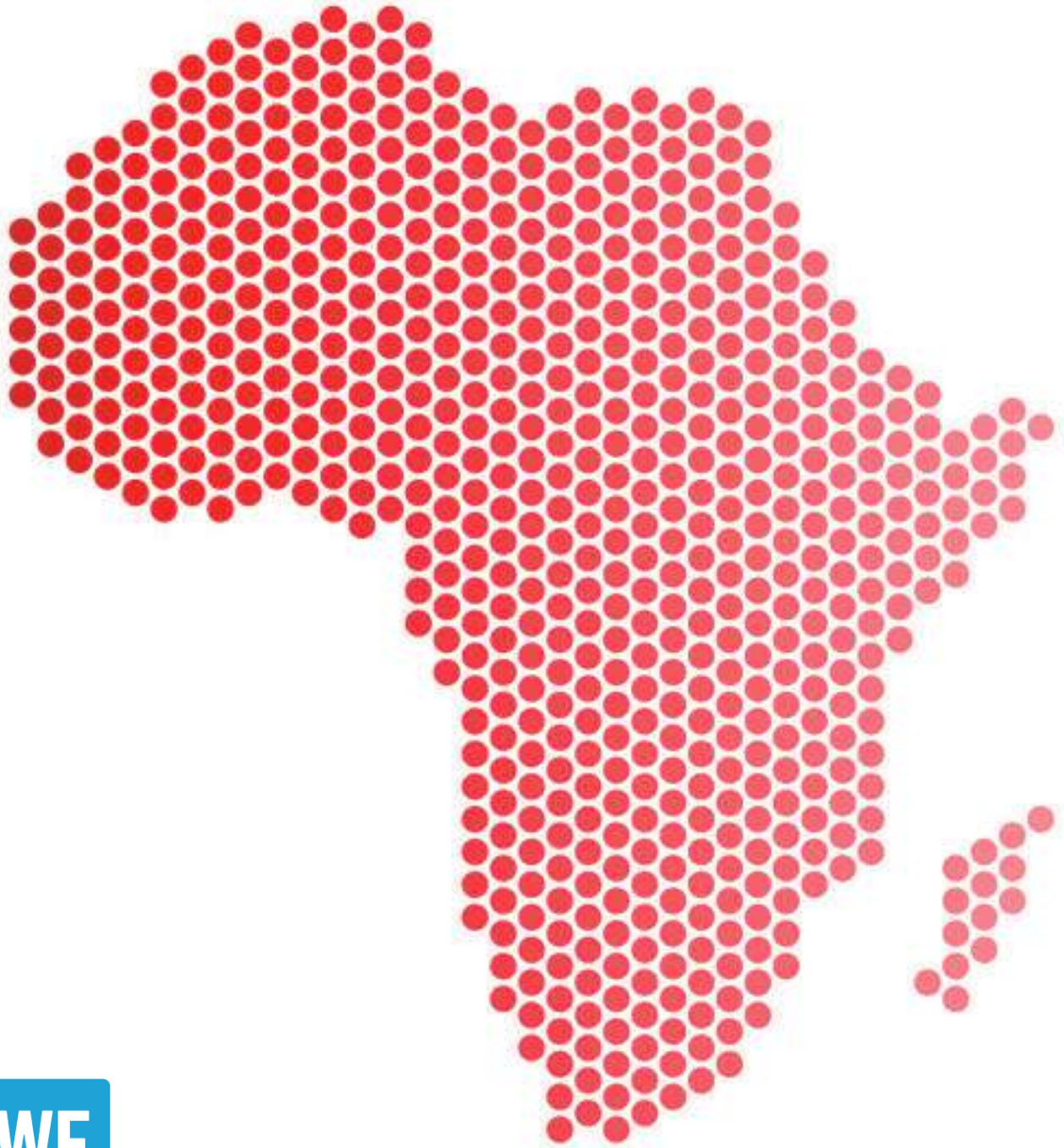


# COVID-19(新型コロナウイルス)に関する 支援活動レポート

---



FREE THE  
CHILDREN

# 東京グレートサンタラン2019に ご参加くださった皆様へ

東京グレートサンタラン2019へご参加、ご協力くださった皆さま、改めまして温かいご支援を本当にありがとうございました。サンタランの収益の一部を用いて、ケニアの先住民族の村の自立支援活動に取り組むことができましたので、ご報告いたします。

当初の予定では、ケニアの先住民族の農村地域に衛生的な水を届けるための水支援事業に使わせていただく計画をしていましたが、2020年に入り、新型コロナウイルスの流行がおこり、支援地域の村々でも人々の健康が脅かされる事態になりましたので、東京グレートサンタラン2019で集まったご寄付は、全て新型コロナウイルス対策緊急支援事業に使わせていただきました。

具体的には、医療従事者の健康と安全を守るための医療防護服や備品を購入し届けたり、先住民族の村の人々への医療物資及び生活物資（せっけん、タオル、マスク、水など）の配布や、コロナウイルスに関する啓発活動を行うことができました。

重ねて、東京グレートサンタランを通じたご支援ご協力に心より感謝申し上げます。

認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン  
事務局一同



# アフリカにおける COVID-19の状況



2020年2月25日にアルジェリアで初の感染が報告されて以降、アフリカ大陸ではCOVID-19の感染拡大が続いています。WHOは、このウイルスがアフリカ全土で確認されたと報告しており、2020年5月31日の時点で147,000件以上の感染件数が確認されています。アフリカ各国の政府や保健機関は、外出制限や国境封鎖、手洗い所の増設や感染疑いがある人の追跡や隔離など、感染予防のために必要な措置をスムーズに執行しています。しかしながら、不十分な医療体制や検査体制、ロックダウンやソーシャルディスタンスを実際に行うのにはあまりに厳しい生活環境のため、アフリカは短期的及び長期的

に、パンデミックによって深刻な影響を受けることになると考えられます。アフリカでのこのウイルスによる致死率は、比較的若者が多いという人口構成の特徴もあり、他の地域と比べれば低く抑えることができています。しかしながら、パンデミックを受けての医療従事者の不安感が高まる一方です。WHOは、アフリカで例え入院を要する感染者が他の地域と比べて少なかったとしても、感染対策が上手くいかなければ、アフリカの医療環境では十分な対応をすることができず、必要な支援を提供することが困難な状況になると予測しています。

アフリカには人口1000人に1.4人の割合で医療従事者がいます。これは極めて低い数値であり、この状況でパンデミックに対処しなければいけないとなると、医療従事者不足の状況はさらに悪化するものと思われます。また、個人用保護具も世界的に不足しているため、医療従事者は、高い感染リスクにさらされており、このことが医療従事者不足に拍車をかける可能性があります。COVID-19のパンデミックは、アフリカの食糧安全保障にも大きく直結しています。

西アフリカ諸国経済共同体によれば、このパンデミックによって2020年6月から8月までの期間に食糧不足や栄養失調の危機に陥る人が1700万人から5000万人増加するリスクがあります。飢餓や栄養失調の増加は、アフリカの人たちが他の病気にかかる危険性をさらに高めます。免疫力が低下することは、COVID-19への感染や重症化のリスクを高めることにもなります。また、封鎖やロックダウンによって食糧の需要と供給のバランスが崩壊し、食品従事者は通常の業務を行うのが困難な状況になっています。農業が主要収入源とな

っている地域では、食糧生産の停滞は日々の家計にも影響を与えています。食糧生産の停滞は市場での価格高騰を招き、栄養価高い食品の入手が困難になります。この状況は、栄養失調のような様々な病気にかかるリスクの拡大にもつながります。社会的、経済的、政治的課題の対応に追われているこの地域に、新たなパンデミックに対応する余裕はありません。

アフリカ諸国は感染予防のための政策を着実に素早く実行してきました。既存の医療体制ではパンデミック対応するのは困難だからです。パンデミックから三カ月近くが経ち、ロックダウンや隔離を緩和する国も出てきています。人々が生活を営むことができるようになるためにも緩和が必要とされるなか、政府や医療関係者は感染者の急増を恐れています。感染の拡大とその影響を抑えるために、規制と緩和を繰り返す状況が暫く続くことが予想されます。



AMN WORLD  
ON  
N

**Spotlight**  
Quick Revision  
Mathematics  
Form 3 and 4

アンジェラ・ソピアト

# Angela Sopiato

## コロナ禍で活動するWEカレッジの学生

ケニアでは、オンライン授業を受けられるテクノロジーにアクセスできる生徒は22パーセントしかいません。現地パートナーNGOのWEが事業を行っている農村部のナロク郡やボメット郡では、学業を行えるWi-Fi やノートパソコンを有している生徒はごくわずかです。そんな中、WEカレッジの学生であるアンジェラ（ライラ村出身）は、コロナ禍に置かれた子どもたちのために懸命に活動しています。彼女は、自らの足で村の若者を訪ね歩き、子どもたちに勉強を教えているのです。

「私の村で大学に進学した女の子は多くないため、村の女の子たちは、私をロールモデルとして見てくれています。だからこそ、学校が閉校しているこの時期の学習を支援したかったんです。」

22歳のアンジェラは、WEカレッジで観光マネージメントを学んでいる学生です。知識に貪欲な読書家で、少女たちと交流し相談に乗ることを楽しんでいきます。彼女は生まれながらの教師なのです。6週間でアンジェラは8年生の生徒全員の家庭を全て訪ね、高校の新学期に向けて授業をしました。このうちの何人かはWEの支援するキサルニ学校へ進学する予定です。さらに、現時点までにライラ村小学校の24人の生徒に150回の授業を行いました(彼女もこの小学校の卒業生です)。もちろん、適切な距離を取り、手洗いなどの感染対策を施したうえで授業を行っています。

# 70日間のコロナ対策支援の成果



**270,000以上の人々**に  
新型コロナウイルスから自分や家族を守る  
ための方法を伝えることができました



**800万ドル**を病院の医療用品を購入  
する資金として送ることができました



**9,000キロメートル**の距離を  
移動し感染予防の啓発を行いました



**10,000以上**の農業資材を農家に  
配布することができました



**16,000以上**の啓発教材が家庭や  
地域に配布されました



**8,000以上**の石鹼と消毒液が家庭  
に配布されました。



ケニアでの新型コロナウイルス対策責任者

# ジョセフ・ガチラ



私たちの新型コロナウイルス対策に関する活動レポートには、ジョセフの医療的知見や見解が含まれます。これによって、ケニアや東アフリカの状況をよりの確に知り、深く理解することができます。

ジョセフ・ガチラ、通称ジョーズは、彼は資格を持った看護師であり、臨床心理士です。現在は臨床心理学の博士課程に在籍しています。10年以上にわたってWEに勤務し、ケニアでの保健プログラムの立ち上げに尽力してくれました。チームの仲間や地域に深い愛情を持ちながら、現場で地道に活動を続けています。

ジョーズは忘れられない笑い声と深い慈悲心を持つ人物で、魂を込めて仕事にあたってくれています。誠実さや謙虚さを大事にししながら、人々の暮らしをより良くすることに人生を捧げてきました。彼は二人の男の子と、ひとりの小さい女の子の父親でもあります。

ジョーズは農村部で育ちました。現在はナイロビに住んでいますが、自分の家族やルーツ、文化を大事にしています。現在ジョーズはケニアの COVID-19対応の責任者を務めており、あらゆる限りを尽くし、彼のチームと、WEが活動する地域がウイルスとの闘いに対応できるようにするための体制を構築しようと奮闘しています。



「感染者数がすぐに落ち着くことは  
まずないでしょう」  
ジョセフ・ガチラ  
バラカ病院責任者



# アフリカの現状

---



**ジョーズに、ケニアでの COVIDの感染拡大を防ぐうえでの啓発の重要性について聞きました。**

- 各家庭に個別訪問を行って村人に直接啓発活動を行うことは、感染拡大を防ぐためには不可欠な行為です。「予防は治療に勝る」という諺がありますが、今回の場合は、まさにそれが当てはまります。この国には、多くの患者を治療する体制が整っていません。医療崩壊に陥ることは容易に想像できることです。
- 3月13日に初感染者が確認されました。現在の感染者数は数字上は三桁となっていますが、検査体制が立ち遅れているというのが実情です。
- 院内で大勢の患者に対応する体制が整っていない病院がほとんどなので、多くの病院で村やコミュニティに出向いて診察や治療ができる仕組み作りを急いでいます。

**あなたのチームが感染予防対策の啓発を最優先の活動としているのはなぜですか？**

- このウイルスは誰もがかかる可能性があります。ウイルスへの免疫を持っている人は誰もいません。貧困や資源の不足が、この地域が直面する課題をより深刻にしています。ですから、感染対策を強化する以外の選択肢がありません。私たちが活動する地域は、ただでさえ弱い立場に置かれているといえます。村人たちに、このウイルスと闘い、自分たちと家族を守るために何ができるのかを理解してもらう必要があります。私たちの役割は、火の元を抑え込む消防士のようなものです。
- 村びとの多くは高齢者で、癌や糖尿病といった持病を抱えています。高血圧の人も多いです。職を失った多くの若者たちが農村部に戻ってきていて、高齢者に感染を広めている可能性があります。素早く行動を取る必要があるのです。（保健省によると、5月28日時点で死亡者全員が高血圧、糖尿病、癌などの持病を抱えていました。）

## 感染予防対策はどのような役に立つと考えていますか？

- COVID-19がもたらす痛み、損失、代償を減らすために、力を尽くさなければなりません。地域を守るのが私たちの使命です。
- 感染予防を呼びかけることで、村人の健康意識にも変化が生まれることが期待されます。
- 従来の医療を受けるために、引き続き、村人に病院への来院を促すことも重要です。当初は恐怖心から母親たちに家での出産を勧めたり、予防接種を子どもに受けさせないように促す村人もいました。これらの行為を実際に行ってしまうと、妊婦死亡率が高まってしまうのですが。正しい感染予防策を村人にいち早く伝え、治療のための臨時の施設を設置するなど、迅速な対応を取ることがとにかく必要でした。

## ケニアやアフリカの現状について教えてください。

- 感染者数がすぐに落ち着くことはないでしょう。多くの地域で検査体制が整っていませんので、本当の感染状況はまだ分からないというのが実情です。
- ケニアでは検査数が増えるのに従って感染者が増えているので、現状を大変警戒しています。特に都市部での増加が顕著です。ロックダウンや門限に疲れ果て外に繰り出す人が出ており、その状況が感染症の増加を招いています。
- ケニア国内の大規模検査は都市部の特定の地域でしか行われていません。陽性者が増えていっても、検査が行われている地域の実態しか分かっていないのです。これは非常に憂慮すべきことです。

## 最後に一言おねがいします。

- 私の両親はとても素晴らしい人物たちですが、そんな両親でさえ、テレビで映されるコロナウイルスのイメージ図がツノメロン(アフリカ原産の果物)に見えてしまい、この果物を食べるのをしばらくやめるといったようなことがありました。重要な情報を正確に伝えていくことが、この闘いに打ち勝つためにはかかせません。やるべきことはまだまだたくさんあります。
- COVID-19 で400万人以上の雇用が失われると推定されています。経済や人々の生活への影響は壊滅的です。我が国は苦しんでいます。その解決策を担うチームの一員として働けることを光栄に思います。

# COVID-19 感染予防対策の最前線に立つヒーロー ベンソン・シゲイ



リーダーであり教員であり、三人の素晴らしい子どもの父親であるベンソン・シゲイは2010年からケニアの現地スタッフの一員として活動しています。この期間、多くの役職を務めました。WEのボランティア体験のファシリテーターから始まり、コミュニティオーガナイザーを歴任し、現在はケニアの農村開発支援のマネージャーを務めています。その前は、村の保育園で教師をしていました。

彼は誇らしげに振り返ります。「三歳以下の子どもたちを教えていました。私たちは村に小学校を建設し、全ての村の子どもたちが進学できるようになりました。」

ベンソンの地域や人々の献身的な姿勢は、現在のコミュニティの持続可能な開発モデル作りを担うマネージャー職でも貫かれています。彼はパンデミックの発生以降、緊急対応プログラムを率いており、トレーニングや

ファシリテーションのスキル、今までの活動によって築かれたナロク群や村人や村のリーダーたちとの人脈を活かし、対応に当たってきました。この地域で育った当事者として、彼は村人の状態を深く気にかけています。新型コロナウイルスの感染を抑えなければいけない今のような時期にこそ、村びとが最も支援を必要としているのだということを強く感じています。

新型コロナウイルスのパンデミックが宣言されて以降、ベンソンと彼のチームは数千キロもの距離を移動し、支援事業を実施している村の各家庭に個別訪問を行ってきました。村びとにウイルスの深刻さや感染拡大を食い止めるために何ができるのかを伝えました。

「村人の手洗い場の設置を手伝いました。手洗い用の石鹼、種や食糧も届けました。」

彼の絶え間ない支援に、多くの村人が刺激を受け、WEのトレーニングプログラムを通じて、ウイルスや感染予防対策についての知識を学ぶようになりました。

素早い対応を取ったのにもかかわらず、地域内で多くの誤った情報が信じられていることに、ベンソンは懸念を示しています。この状況を変えるには、地道に地域を回り情報を伝えていくしかありません。

「お酒を飲むことが感染予防になると思っている人もいます。」

こう説明する彼は、こういった人々の誤解を解くために働けることを嬉しく思っています。各家庭を訪問し資材や情報を届ける度、家庭に住む村人から感謝の言葉を告げられます。10年この仕事を続けている今でも、謙虚な気持ちを感じることができる瞬間だと彼は語ります。

余暇には、彼は家族との時間、特に子どもたちに宿題を教えている時間を楽しみます。川で過ごす静かな時間も楽しみのひとつ。釣りをしたりしてリフレッシュしています。こういったリフレッシュは自身の心のケアや忍耐力を身に着ける時間としても大切なのだそうです。

この10年をふりかえり、ベンソンはWEが地域にもたらした変化を誇りに思い、その担い手の一員であることを感謝したいといっています。彼は自身の仕事を通じて、知識や物資を農村に届け、村びとたちを勇気づけことを楽しんでいきます。ベンソンは、彼のチームや現地のパートナーたちと一緒にこのパンデミックを乗り越えることができると確信しています。

# 防護用品が村を救う

10,000個のKNマスクの到着に  
バラカ病院チームから喜びの声が届きました！

ケニアでは、医療施設における  
防護用品の不足が深刻となっています。  
そんな中、国際郵送で届いたこの  
10,000個の医療用マスクは、  
日々感染者が増加している現場で活動する  
メディカルチームの安全を守るために  
届けられました。

さらに、人工呼吸器を含む  
治療や予防に必要なその他の  
医療用品を詰め込んだコンテナ8箱が  
まもなくバラカ病院に到着する予定です。









## フランシス・レツイ

みんなが変化を起こすために  
助け合っています。

「この水道メーターが、WEがこの村で  
実施している 感染予防プログラムの  
インパクトの大きさを示している」  
とフランシスは言います。

フランシス・レツイ(52歳)は、  
使命感あふれる村の水道管理組合員。  
水の使用量を記録しています。  
フランシスによると、住民たちは今までの  
2倍の量の水を使うようになったそうです。

フランシスは貯水所を毎日調査し、  
パンデミックに対応できる分の水があるか  
を調べています。

9人の子の父親で村の長老でもある彼は、  
村の各家庭を一軒一軒訪ねて、家庭に  
清潔な水や石鹸があるか確認しています。

「みんなそれぞれが、自分たちの身の回りの  
範囲内で、小さな変化を起こす責務を  
負っているのです。」



# Together We Can Change the World

---



**FREE THE  
CHILDREN**

—— 「世界は変えられる」子どもがそう信じられる社会に ——

認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

URL: <http://www.ftcj.org/>

■事務所

〒157-0062東京都世田谷区南烏山6-6-5 3F

TEL 03-6321-8948 FAX 03-6323-6504